

ひと

世界の紛争地に笑いを届ける落語家

しょうふくてい かくしょう
笑福亭 鶴笑 さん(54)

人見知りでシャイなのに、笑わせるためなら大胆になる。十八番のパペット落語は、ひざに仕込んだ手作りの人形や小道具を使って繰り広げる一人格劇。言葉をこえた芸で、イラク、アフガニスタンと治安に不安のある国も訪れて笑いを届けている。

今年の夏にフリージャーナリス
トラと向かったアフガンの首都・
カブールでは、ヘン顔を切り札に
避難民キャンプなどを回った。
「喜んでもらえたら、それでええ
んです」。型に縛られない上方芸
人の精神を世界で実践している。
兵庫県朝来市出身。高校卒業後
に職を転々として、24歳で大阪で
落語家になった。ダウンタウンら
が輩出した心斎橋筋2丁目劇場に

出演。落語に興味のない女子高生
たちも笑わせてやろうと、パペッ
ト落語を編み出した。

30歳で落語家仲間と米国に行っ
たのを手始めに毎年のように海外
で芸を披露。有名になりたかつ
た。だが、2000年に大地震後
のトルコで「国境なき医師団」の
活動を知り、自分にできることを
考えた。4年近く暮らしたロンド
ンでも、芸人が当たり前のように
社会奉仕活動をしていた。心を励
ます笑いを世界へ届けようと、8
年前に仲間とNPO法人「国境な
き芸能団」を旗揚げした。

「こっちが笑顔なら向こうも笑
顔になる。笑いで人は友だちにな
れる。国際貢献ができると思う」

文・篠原健一 写真・伊藤菜々子

